

展示室 2



はるひ美術館学芸員 加藤恵さん

×

清須市役所実習生 人事秘書課 秘書広報係

ウルフドッグス名古屋 傳田 亮太 選手

はるひ美術館 特別展

「ぞうのエルマー絵本原画展」

対談インタビュー



ウルフドッグス名古屋
傳田 亮太 選手



はるひ美術館学芸員
加藤 恵 さん

はるひ美術館を「はじめての美術館」に

傳田選手(以下、傳田) 美術館って、知識がないと分からないイメージがあって、あまり行ったことがないんです。

小さい子どもがいると騒いじゃいけないかなってなおさら…。

加藤学芸員(以下、加藤) そういうイメージを持っている方は多いですね。

でも今は、様々な美術館が家族で来られるイベントや展覧会を企画して、皆さんに来ていただけるように工夫しているので、以前より親しみやす

くなったと思います。

はるひ美術館は小さな美術館ですが、だからこそゆっくり見ていただけるんです。

展覧会を企画する上で、「はじめての美術館」がコンセプトの1つにあり、特に小さいお子さんや子育て世代にとっての初めての美術館でありたいという思いがあります。

年間5本ほどの展覧会では、清須市ゆかりの芸術家や、ご存命の作家の展示を企画することが多いんですが、年に1本は多くの方に親しみやすい展覧会をやろうと考えています。

傳田 そういうコンセプトがあると、子ども連れでも行きやすいですね。

テーマが知っているものだと、行ってみようかなっていう気持ちになります。

絵本の原画展ならではの

傳田 絵本の原画展は、一般的な美術作品の展覧会とどう違うんですか？

加藤 絵本の原画は、印刷されて、本になって、多くの人が手に取って親しむものとして描かれます。

ですが、原画自体は、世界に1点しかありません。元々親しんでいる絵本の元になっている絵が見られるのは、原画展ならではの特征ですね。

それに、絵本の絵は単なるお話の説明的な挿し絵ではなく、絵自体に見る人が楽しめるような工夫が入っていると思います。

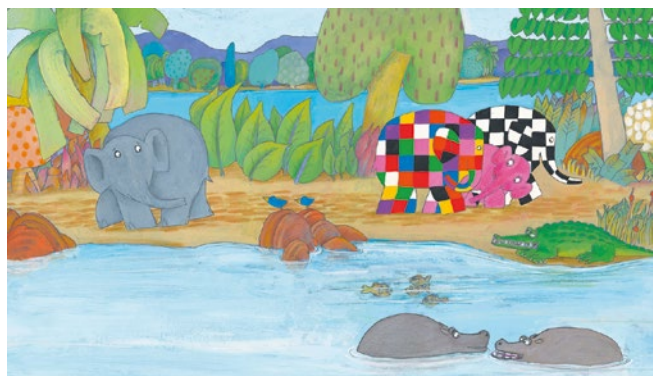
傳田 1歳の息子に最近読み聞かせをするんですが、「ぞうのエルマー」シリーズは色づかいが鮮やかで、小さい子でも見るだけで楽しめるようになっていますよね。

加藤 「ぞうのエルマー」シリーズはストーリーがしっかりある作品なので、物語としても楽しめますが、すごく色がカラフルできれいなので、作者もそこは意識しているんじゃないかなと思います。

作品からのメッセージ

傳田 作者のデビッド・マッキーさんはどんな作風の作家さんですか？

加藤 元々風刺漫画誌の挿絵画家として仕事をスタートされた方なので、社会風刺のエッセンスの入った作品はありますね。



「エルマーとローズ」© David McKee/Andersen Press

例えば、『せかいでいちばんつよい国』は、自分の国は世界一強くてすてきな国だと信じている大国が、世界中を同じように幸せにしたいくてどんどん侵略しようとするお話です。



今の世界情勢の影響もあって、再び注目されています。子どもだけでなく大人も楽しめる作品だと思います。

傳田 そういうテーマでも絵本なら子どもも興味を持ちやすいですし、息子がもう少し大きくなったら読ませてあげたいです。

今回、「ぞうのエルマー」シリーズに注目したねらいはなんですか？

加藤 エルマーは他のぞうとは違ってパッチワーク模様のぞうなんです。エルマー自身もどうして？と思って、自分を他のぞうと同じ色に塗って群れに紛れ込んで驚かせる。

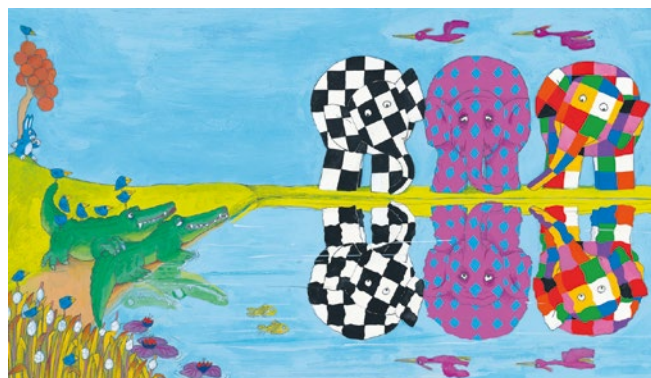
そんなストーリーから、他の人との違いを認めていくっていうメッセージを受け取ることができると思います。それが、現代の大人たちにも、子どもたちにも伝わるんじゃないかと、この作品を選びました。

キャラクターもすごく面白くて、絵柄もかわいらしいので、そういうメッセージも道徳的な硬い伝わり方ではなく、おもしろおかしく、明るく伝えることができる作品だと思います。

傳田 すごく深い作品ですね。エルマーシリーズ、読みたくなってきました！



「Elmer's Walk」© David McKee/Andersen Press



「エルマーとゼルダおばさん」© David McKee/Andersen Press

「ぞうのエルマー絵本原画展」の楽しみ方

傳田 今回の展覧会の楽しみ方を教えてください。

加藤 原画を見ると、筆跡を残すような描き方を
 していて、色んな画材を使っているのも分かります。

絵本で見るのとは違って、原画からは実際の描
 いている雰囲気そのものが伝わってくるところは
 注目していただきたいポイントです。

舞台がジャングルなので、ぞう以外にも色んな
 動物や植物が登場しますが、中でも植物の描き方
 は独特なので、そこにも注目していただけると面
 白いです。

原画は絵本よりさらに色が鮮やかなので、そこ
 も楽しんでいただけます。

今回の展覧会では、原画だけで150点以上の作
 品が展示されるんですが、それだけの数の作品が
 展示室に並ぶと、すごく色鮮やかな展示空間にな
 るんじゃないかなと、私も楽しみにしています。

傳田 （製本された）絵本との違いですね。これか
 ら視点が変わりそうです。



加藤 展示だけでなく、イベントもいろいろ企画
 してまして、開催期間中に2日間、ファミリー鑑

賞会を行います。

小さいお子さん連れで美術館って行っているの
 かなって感じる方も多いと思うので、イベントと
 して0歳から小学生までのお子さん、その保護



者の方に限定した鑑賞会を企画しました。ベビー
 カーや抱っこひもでのご参加もちろんOKです。

そういうイベントをやることで、ご家族連れの方
 にも来ていただきやすくなるかなと思います。

傳田 小さい子どもがいると、そういうイベント
 は本当にありがたいです。どうしても美術館はハ
 ードルが高いと感じてしまうんですが、足を運び
 やすくなりますね。

加藤 他にも、常設のワークショップも計画して
 います。エルマーの塗り絵や、デビッド・マッキ
 ーさんがよく知人に送っていた絵封筒の体験がで
 きます。

こういう機会をきっかけに、絵を描いたりもの
 を作ったりするのが楽しいって知ることもあると
 思うんです。

傳田 楽しそうですね。ぜひ子どもにやらせたいです。

加藤学芸員から傳田選手への質問

加藤 日本代表もご経験されていますが、世界を舞台にご活躍されて、意識が変わったことはありますか？

傳田 知らない選手と一緒にだったり、違う国と試合をしたりと、本当にいろいろな人と関わることが多いんです。日本人って、人の目を気にすることも多いと思うんですけど、そんな環境でずっと人を気にしていると試合に集中できないし、自分自身が疲れちゃうんですね。

なので、人と比べたり、人の顔をうかがったりすることがなくなったっていうのはあります。

加藤 試合を拝見すると、皆さんがボールの軌道を読みながらプレーをされているのが、すごく伝わってきました。

傳田 男子のバレーボールだと打ったボールが時速120kmくらいになることもあって、一瞬の判断で全部変わってくるところが、すごく難しい競技かなと思います。

数ある球技の中で、ボールを床に落としてはいけないというルールがあるのはバレーボールくらいです。

中学生に教えていると、なかなかラリーが続かなくて、そこを教えるのは本当に難しい。コートに6人いる中で、協力して3回以内にボールを返さ

ないといけないというルールの中では、コミュニケーションがとても大事になるんですが、人と協力することって社会に出てからも大切だと思うんです。それを中学生に伝えられたらなと思っています。



最後に

傳田 今回の展覧会を待っている多くの市民の方に、一言お願いします。

加藤 今回、たくさんの絵本の原画が展示されますし、作品自体とても親しみやすいものだと思いますので、多くの方に来ていただきたいです。

ワークショップやイベントも充実させて開催しますので、そちらもご参加お待ちしております！

傳田 自分も今回のインタビューで美術館のハードルがすごく下がったので、今後参加したいと思います。

ありがとうございました！

特別展「ぞうのエルマー絵本原画展 いっしょにカラフルパレード」

会 期：8/3(土)～10/14(月・祝)

※月曜休館(祝日の場合は翌平日)

開 館：10:00～19:00(入館18:30まで)

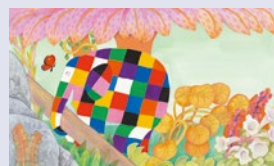
観覧料：一般800円(700円)、高大生600円(500円)、
中学生以下無料

- ・ ()内は各種割引料金(20名以上の団体、清須市立図書館貸出カード提示者等)
- ・ 各種障がい者手帳等提示者及び付添人1名無料

※関連イベント等の最新情報は、はるひ美術館ホームページをご覧ください。



「エルマーとまいごのクマ」



「エルマーとちようちょ」



デビッド・マッキー
(1935～2022)

©David McKee/Andersen Press